

# 諸聖人に依頼する祈禱

君や、祝讃せよ。

我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。

詠司輔

アミン。  
天の王慰むる者や、眞実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、  
の寶藏なる者、生命を賜うの主や、來たりて我等の中に居り、我等を諸の  
より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。

誦

## 聖三祝文、至聖三者、主経

聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦  
せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。

主憐めよ。(三次)

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は來たり、爾の旨  
は天に行わるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、  
我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導か  
ず、猶我等を凶悪より救い給え。

蓋國と權能と光栄は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。  
アミン。

主憐めよ(三次)。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

來たれ、我等の王神に叩拝せん。

來たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。

來たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

第百四十二聖詠

主よ、我が祈を聆き、爾の眞實に依りて我が願に耳を傾けよ、爾の義に依りて我に聴き給え。爾の僕と訟を為す母れ、蓋凡そ生命ある者は、一も爾の前に義とせられざらん。敵は我が靈を逐い、我が生命を地に躁り、我を久しう死せし者の如く暗に居らしむ、我が靈は我の衷に悶え、我が心は我の衷に曠にしきが如し。我古の日を想い、凡そ爾の行いしことを考え、爾が手の工作を計る。我が手を伸べて爾に向い、我が靈は渴ける地の如く爾を慕う。主よ、速に我に聴き給え、我が靈は衰えたり、爾の顔を我に隠す母れ、然らずば我は墓に入る者の如くならん。我に夙に爾の憐を聴かしめ給え、我爾を頼めばなり。主よ、我に行くべき途を示し給え、我が靈を爾に擧ぐればなり。主よ、我を我が敵より救い給え、我爾に趨り附く。我に爾の旨を行うを教え給え、爾は我の神なればなり。願わくは爾の善なる神は我を義の地に導かん。主よ、爾の名に依りて我を生かし給え、爾の義に依りて我が靈を苦難より引き出し給え、我は爾の憐を以て我が敵を滅ぼし、凡そ我が靈を攻むる者を夷げ給え、我は爾

主は神なり

の僕なればなり。  
ぼく

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。  
アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光榮は爾に帰す。  
(三次)

主  
七

主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。主は神なり我等を照らせり、主の名に依りて来る者は崇め讃めらる。(三次)

(句) 主を尊み讃めよ、彼は仁慈にして、その憐<sup>かご</sup>は世世にあればなり。  
(句) 彼等我を圍<sup>めぐ</sup>み我を環れども、我主の名を以て之を敗れり。

(句) 工師が棄てし所の石は屋隅の首石となれり、是主のなす所にして我等の目に奇異なりとす。

輔 詠 輔

# 生神女のトロパリ（第四調）

我等罪人にして卑賤なる者、今熱心にして神の母に趨り就き、伏し拝み痛悔して心の衷より呼ぶ、女宰や、我等を憐み助けよ、我等罪惡の多きに因りて、將に亡びんとす、速やかに我等を救い、徒然に帰すなけれ、我等只爾を我が頼とすればなり。

**又　　は**　　(第四調)  
神を生みし処女や、我等不当の僕婢、爾の力を称うるを止めず、蓋爾転達し祈祷せざれば、誰か我等をかかる苦難より救わんや、誰か我が自由を守りて今日に至らしむる、女宰や、我等爾に離れず、爾の僕婢を常に諸の災より救い給えばなり。

### 或　　い　　は

神の母や、爾の僕婢を苦難より救い給え、蓋我等皆神に呼び、爾に趨り就く、爾は我が為に破れざる盾と防なればなり。

### 聖使徒「聖神父」のトロパリ　(第四調)

聖使徒(聖神父)「某」や、仁慈の神に祈れよ、我が靈の罪の赦を賜わんこと

を。

### 聖致命者のトロパリ　(第四調)

主や爾の致命者は、其苦しみの中に、爾我が神より不朽の榮冠を受けたり、蓋爾の力に因りて、苦しむ者に勝ち、悪魔の空しき謀をも破り、彼等の祈祷に依りて、我等の靈を救い給え。

### 聖克肖者のトロパリ　(第四調)

聖なる「某」や、爾の中に神に似たる分顕れて救いを得たり、蓋爾十字架を負うてハリストスに従い、爾の行を以て朽ち易き肉体を軽んじ、死せざる靈を重んずべきを教えたり、故に神に至つて似たる「某」や、爾の靈は天使等と共に喜ぶ。

※ 聖人に依頼する句 (第一回)

至聖なる生神女に依頼する時

輔	司	司	司	司	司	司	司
神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。	詠	詠	詠	詠	詠	詠	詠
光荣は父と子と聖神に帰す、	今も何時も世世に、アミン。	克肖なる神父（某）や、我等の為に神に祈り給え。	克肖なる神父（某）や、我等の為に神に祈り給え。	克肖なる神父（某）や、我等の為に神に祈り給え。	聖致命者（某）や、我等の為に神に祈り給え。	聖致命者（某）や、我等の為に神に祈り給え。	至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。
趨り就けばなり。	至聖なる生神女や（聖使徒・聖神父・聖致命者・聖克肖者「某」や）、我等の為に神に祈り給え、我等熱切に、爾速なる扶助者、及び我等の靈の代求者に	克肖なる神父（某）や、我等の為に神に祈り給え。	克肖なる神父（某）や、我等の為に神に祈り給え。	克肖なる神父（某）や、我等の為に神に祈り給え。	聖使徒〔聖神父〕（某）や、我等の為に神に祈り給え。	聖使徒〔聖神父〕（某）や、我等の為に神に祈り給え。	至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。
重 聯 祷		聖克肖者に依頼する時			聖致命者に依頼する時		

主憐めよ。（三次）

〔以下毎時同様〕

又我が國の天皇、及び國を司る者の為に祈る。

又教会を司る尊貴なる我等の大主教及び全日本の府主教〔某〕、主教〔某〕、及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に祈る。

又、此處に集まりし神の諸僕（婢）に、慈憐、生命、平安、壯健、救贖、眷顧、寛宥、及び諸罪の赦を賜わんが為に祈る。

蓋爾は慈憐にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に。

又、ハリストスを愛する悉くの兄弟姉妹等の為に祈る。

アミン。

※ 聖人に依頼する句（第二回）

## 至聖なる生神女に依頼する時

至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。  
至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。  
至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。  
至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。

### 聖使徒「聖神父」に依頼する時

聖使徒〔聖神父〕（某）や、我等の為に神に祈り給え。  
聖使徒〔聖神父〕（某）や、我等の為に神に祈り給え。  
聖使徒〔聖神父〕（某）や、我等の為に神に祈り給え。  
聖使徒〔聖神父〕（某）や、我等の為に神に祈り給え。

### 聖致命者に依頼する時

聖致命者（某）や、我等の為に神に祈り給え。  
聖致命者（某）や、我等の為に神に祈り給え。  
聖致命者（某）や、我等の為に神に祈り給え。  
聖致命者（某）や、我等の為に神に祈り給え。

## 聖克肖者に依頼する時

司	詠	詠	司
克肖なる神父	(某)	や、	我等の為に神に祈り給え。
克肖なる神父	(某)	や、	我等の為に神に祈り給え。
克肖なる神父	(某)	や、	我等の為に神に祈り給え。
(某)	(某)	や、	我等の為に神に祈り給え。
や、	や、	我等の為に神に祈り給え。	我等の為に神に祈り給え。
我等の為に神に祈り給え。	我等の為に神に祈り給え。	我等の為に神に祈り給え。	我等の為に神に祈り給え。

光榮は父と子と聖神に帰す、  
今も何時も世世に、アミン。  
至聖なる生神女や（聖使徒・聖神父・聖致命者・聖克肖者〔某〕や）、我等の為  
に神に祈り給え、我等熱切に、爾速やかなる扶助者、及び我等の  
に趨り就けばなり。

小聯補

輔我等復又安和にして主に祈らん。

詠 輔 詠 輔 詠  
主憐めよ。  
神や爾の恩寵を以て、我等を佑け救い憐み護れよ。  
主憐めよ。  
至聖至潔にして至りて讃美たる我等の光榮の女宰・生神女・永貞童女マリヤと、  
諸聖人とを記憶して、我等己の身及び互いに各の身を以て、並びに悉くの我等の  
生命を以て、ハリストス神に委託せん  
主爾に。

輔司詠  
誦司詠  
輔司詠  
主爾に。  
蓋爾は平安の王及び我が靈の救主なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も  
何時も世世に。  
アミン。  
謹みて聽くべし。  
衆人に平安。  
爾の神にも。  
睿智。

# ポロキメン

(至聖なる生神女に)

我爾の名を、萬世に誌さしめん。  
我爾の名を、萬世に誌さしめん。  
我が心善言を湧き出せり。  
我爾の名を、萬世に誌さしめん。

萬世に誌さしめん。  
萬世に誌さしめん。  
萬世に誌さしめん。  
萬世に誌さしめん。

- 13 -

（聖使徒に）  
其聲は全地に傳わり、其言は地の極に至れり。  
其聲は全地に傳わり、其言は地の極に至れり。  
其聲は全地に傳わり、其言は地の極に至れり。  
其聲は全地に傳わり、其言は地の極に至れり。

天は神の光榮を傳え、穹蒼は其手の作る所を告ぐ。  
天は神の光榮を傳え、穹蒼は其手の作る所を告ぐ。  
天は神の光榮を傳え、穹蒼は其手の作る所を告ぐ。  
天は神の光榮を傳え、穹蒼は其手の作る所を告ぐ。

其言は地の極に至れり。  
其言は地の極に至れり。

（成聖者及び克肖者に）

聖人の死は、主の目の前に貴し。  
聖人の死は、主の目の前に貴し。  
我何を以て主の我に施せし悉の恩に報いん。  
聖人の死は、主の目の前に貴し。  
聖人の死は、主の目の前に貴し。

主の目の前に貴し。

主に祈らん。  
主憐めよ。

蓋我が神や、爾は聖にして聖なる者の中に居る、我等光榮を爾父と子と聖神に獻  
ず、今も何時も世世に。  
アミン。

- 14 -

凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ。

凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ  
その  
神を其望所に賛め揚げよ  
その

お神を其聖所に詣&拝げよ 御を其方  
凡そ呼吸ある者は主を讃め揚げよ。

凡そ呼吸ある者は、

主を讃め揚げよ。

我等に聖福音經を聴くを賜うを主・神に祈らん  
三章の二〇。(三二)

主憲文

聖福音經を聴くへし  
睿智肅みて立て衆人ニ平安。

麥人<sup>シナノ</sup>ニ安<sup>スル</sup>

〔某〕伝の聖福音經の読み。

主や、光榮は爾に帰し、光榮は爾に帰す。

謹みて聽くべし。

- 1 -

福音

（「諸」と在る項は複数の当該聖人に依頼する祈祷に用いる。）

生神女に  
(ルカ伝 一・三九、四九、五六)

聖神使に（ルカ伝一〇：六五）

聖預言者(マニウス)の「アガサ」

聖使徒は（エリヤ）が、三十六人（アーヴィング）

成聖者に　（イオアン伝　一〇・九・一六）

諸成聖者に  
マテウム五章一節

聖克肖者及び佯狂者に  
(マトフエイ伝)

# 克肖なる母(克肖女)に (マトフエイ伝 二

聖致命者に  
(ルカ伝一二・二八—二)、

諸聖致命者に（マトフエイ伝）一〇・一六

聖神品致命者に（ルカ伝一一三一四）

諸聖神品致命者に  
（ルカ伝 六・一七）

聖修道致命者に (マルコ伝 八・三四～九・一)

聖諸修道致命者に (マトフエイ伝 ママ) 一〇・三二～三三、三七～三八)、又は(マトフエイ伝

一九・二七～三〇)、又は(ルカ伝 一八・三五～四三)

諸聖致命女に (マトフエイ伝 一五・二一～二八)、又は(マルコ伝 五・二五～三四)

聖修道致命女に (マトフエイ伝 二五・一～一三)

聖表信者に (ルカ伝 一一・八～一一)

聖廉施者に (マトフエイ伝 一〇・一、五～八)

詠

主や、光榮は爾に帰し、光榮は爾に帰す。

※ 聖人に依頼する句 (第三回)

司

至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。

### 至聖なる生神女に依頼する時

至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。  
至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。  
至聖なる生神女や、我等の為に神に祈り給え。

### 聖使徒「聖神父」に依頼する時

聖使徒〔聖神父〕(某) や、我等の為に神に祈り給え。  
聖使徒〔聖神父〕(某) や、我等の為に神に祈り給え。  
聖使徒〔聖神父〕(某) や、我等の為に神に祈り給え。  
聖使徒〔聖神父〕(某) や、我等の為に神に祈り給え。

### 聖致命者に依頼する時

聖致命者 (某) や、我等の為に神に祈り給え。  
聖致命者 (某) や、我等の為に神に祈り給え。  
聖致命者 (某) や、我等の為に神に祈り給え。  
聖致命者 (某) や、我等の為に神に祈り給え。

### 聖克肖者に依頼する時

詠 司 詠 司 詠 司 詠 司 詠 司 詠 司 詠 司 詠 司

詠 司 詠 司 詠 司 詠 司 詠 司 詠 司 詠 司 詳

詠司	詠司	克肖なる神父	克肖なる神父	我等の為に神に祈り給え。
克肖なる神父	(某)	克肖なる神父	(某)	我等の為に神に祈り給え。
(某)	や、	(某)	や、	我等の為に神に祈り給え。
や、	我等の為に神に祈り給え。	我等の為に神に祈り給え。	我等の為に神に祈り給え。	我等の為に神に祈り給え。
我等の為に神に祈り給え。	我等の為に神に祈り給え。	我等の為に神に祈り給え。	我等の為に神に祈り給え。	我等の為に神に祈り給え。

光榮は父と子と聖神に歸す、  
今も何時も世世に、アミン。

重聯補

輔神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納きれて憐めよ。

詠  
輔  
輔  
主憐めよ。〔三次〕  
〔以下毎時同様〕

又我が國の天皇、及び國を司る者の為に祈る。

又教会を司る尊貴なる我等の東京の大主教及び全日本の府主教〔某〕、主教〔某〕、及びハリストスに於ける悉くの我等の兄弟の為に祈る。

又、我等の主神が我等罪人の祈りの聲を聴き容れ、其諸僕（婢）を憐み、彼等を凡の憂愁、艱難、窮乏、忿怒より療い、又彼等を靈体の病より守り、彼等に壯健と長寿とを賜るが為に祈る。

又、此の都邑と凡の都邑と地方が、飢饉、疫病、地震、水難、火難、劍難、外攻、内乱より護られ、我が善にして人を愛する神が仁慈と哀憐とを垂れて、凡そ我等に臨む怒を遏め、其我等に迫る義なる罰より我等を救い、及び我等を憐むが為に祈る。

又、主神が我等罪なる者の祈の聲こゑを聴き納きれて、我等を憐まむが為に祈る。  
神我が救世主、地の四極と遠く海に居おる者との時たのみや、我等に聞き給え、主宰や、  
我等の罪に慈憐を垂れ、慈憐を垂れて我等を憐あわれみ給え、蓋爾は慈憐にして人を  
愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に献ず、今も何時も世世に。

アミン。

睿智。

至聖なる生神女や、我等を救い給え。

ヘルワイムより尊くセラファイムに並びなく榮え、貞操を破らずして神言ことばを生み

し、実の生神女たる爾たのみを崇め讃む。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。

福を降せ。

ハリストス我等の真の神は、其至淨なる母、聖使徒（或いは聖神父・聖致命者）

〔某〕、亞使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて我等を憐み

救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり。

アミン。

## 幾歳も

輔  
詠　　主よ、今此處に立ちて祈る爾の諸僕（婢）〔某〕に、萬福にして平安なる度生、  
壯健と救贖、及び萬事に於ける善き進歩を與えて、彼（等）を幾歳にも護り給え。  
幾歳も。（三次）